

パフォーマンステスト「Made in レポート」 (第8時)

測る力	話すこと〔発表〕＋〔やり取り〕：身の回りのものについて It's a / It's from / ... is in で紹介し、質問に応じられるか（知識・技能／思考・判断・表現）
形式・時間	先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で（待機イス1つ）。グループのマップと活動シート2を持って来てよい。30～40秒の紹介＋先生からの質問1～2つ。
ことばの条件	黒板の「3点セットの型」（It's a / It's from / ... is in）と世界地図は掲示したままでよい。活動シート2を見ながらでもよい。

35人を回す テスト中、ほかの子は何をしているか（これが崩壊しない鍵）

グループ	やること	用意する物
A（テスト中の班）	順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする	グループのマップ・活動シート2
B	活動シート2の「聞く人のことば」を使って、班の中だけで小声インタビュー（役を交代）	活動シート2
C	絵カードで「もの→国」の2文を作って言い、ほかの子が地いきを当てる（読み手を交代・小声で）	絵カード（班用）・活動シート2
D	振り返りカードの「単元のまとめ」を書く（書けたら席でBと同じことをする）	振り返りカード（学校のもの）

1班終わるごと（9～10分）に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる（テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ）。1班8～9人・約1分×35人で35～40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと（待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ）。終わった子は、聞かれたことを話さない——後の子が思い出しテストになる。マップは4人グループに1枚なので、テスト席へ持って来るのは呼ばれた子の分だけ（残りの子は活動シート2で続ける）。



先生の質問カードと、評価しないこと

先生の質問カード この順に聞く（子どもによって2～3問でよい）

- 1 **Hello! Please show me your map.**
（マップを指して。発表のきっかけを渡す）
- 2 **（児童の紹介 2～3文）**
It's a / It's from / ... is in など
- 3 **Nice! Where is it from?**
（もう1つ国を引き出す。言えたら地図を指させる）
- 4 **Oh! Is it in Asia?**
（地いきの確認。Yes / No でも、地図の指さしてもOK）
- 5 **（ここで3秒、だまって待つ）**
（質問が返ってきたら思判表a。出てこなければ次へ）
- 6 **Thank you! See you!**
（お別れまでがテスト）

評価しないこと 国名・地いき名の発音の正確さは評価しない（Indonesia が言えなくても、地図を指せば伝わっている）。調べたものの数の多さ・めずらしさも無関係。持ち物のねだん・メーカー・新しさには先生も一切触れない——話題にするのは「どこから来たか」だけ。

ルーブリック（3観点）と記録シート

観点	a（十分満足）	b（おおむね満足）	c（支援が必要）→その場 でする支援
知識・技能	世界地図やグループのマップを指し示しながら、It's a / It's from / ... is in を順につなぎ、もの・国・地いきをまとまりのある順序で3文以上紹介できる	支えの質問を受けながら、It's a または It's from の文を1～2文言える	マップを指しながら単語（T-shirt! Vietnam!）で伝えられる→型の掲示を一緒に指さして1文だけ再挑戦
思考・判断・表現	聞き手に伝わるよう地図を指す・ゆっくり言う・言い直すなどの方法を選んで紹介し、追いかけて質問に答えるだけでなく、話が止まった場面では Where is it from? / Is it in Asia? などを自分から作ってたずね、やり取りを終わらせずに続けられる	紹介したい内容に合う語句・表現を選んで伝えられる	質問と答えがずれる→質問をゆっくりくり返し、地図の2か所を指して選ばせる
主体的に学習に取り組む態度（単元全体で）	調べたことを地図に位置づけ直したり、国名の言い方を確かめたりしながら、相手が答えに迷う場面でも自分から問いかけて、進んでやり取りを続けようとする姿が見られた	グループの活動に参加し、振り返りに手ごたえが書かれている	→振り返りの視点を一緒に選ぶ（「どの国がいちばん遠かった？」から）

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート 名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

番号	名前	知技	思判表	メモ（1語だけ）
1		a b c	a b c	
2		a b c	a b c	
3		a b c	a b c	
4		a b c	a b c	
5		a b c	a b c	
6		a b c	a b c	
7		a b c	a b c	
8		a b c	a b c	
9		a b c	a b c	
10		a b c	a b c	
11		a b c	a b c	
12		a b c	a b c	

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で。名前・活動名を入れ替えて使ってください。

【知技・a】Made in レポートでは、It's a / It's from / ... is in の3文を順につなぎ、見つけたものとその国、さらに地いきまでを続けて紹介することができました。

【知技・b】産地の表示を読み取ったあと、世界地図で国の位置をたしかめてから It's from の文にする手順が身につく、その国がどの地いきにあるかまで加えて言えるようになりました。

【思判表・a】地図を指し示す、ゆっくり言う、言い直すといった方法を場面ごとに選び、Made in マップの発表では聞き手に伝わるように紹介することができました。

【思判表・b】マップにのせる3つを決めるときには、自分たちの暮らしと世界のつながりが見える組み合わせを選び、品物と国に合う語句で紹介することができました。

【態度】教室や学校の備品からまだ出ていない国のものをさがし、その国の言い方を先生に確かめるなど、Made in 調査に進んで取り組みました。

【態度】Small Talkの時間に自分の見つけた産地を進んで伝え、友だちの発表にも Really? と反応を返すなど、英語で伝え合う楽しさを味わっています。

【はげまし型】発表の前には、活動シートの3点セット（もの・国・地いき）を1つずつうめて準備しました。黒板の型を見ながらであれば、It's from の1文をはっきり伝えることができます。

【接続型】身の回りのものを通して世界とのつながりを英語で伝える経験をたっぷり積みました。中学校の英語や、社会科の「世界の中の日本」の学習に、実感を伴ってつながる土台ができています。

【発展・★3】よその班の Made in マップを見に行ったときは、書かれた文を自分で読んで三つの問いに答え、いちばん伝えたい一文はどれかまで選び出していました。

書き方の型 ①活動名（具体）・②できるようになったこと（評価規準のことば）・③子どもの姿（1つだけ）の3点で書く。順番は入れ替えてよく、どれも同じ文型に見えないよう書き出しを変えてある。持ち物のねだん・メーカー・家庭で買ったものかどうかには一切触れない（家庭状況への言及になり得るため。「伝え方」の成長だけを書く）。★3は「教科書を超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。